

安倍改憲を許さない。 改憲発議を食い止めよう！

草の根から世論を巻き起こすのが私たちの役目。

3000万署名運動を全力で！ 静岡市平和委員会

しずおか平和の風

No.31
2017年11月25日
発行
静岡市
平和委員会
静岡市葵区鷹匠
1-5-8
TEL 253-1854
FAX 252-0785
メール
Peace-City
@mail.707.to

戦後初めて自民党が「憲法改定」を公約に掲げておこなわれた先の選挙で、改憲勢力は発議に必要な3分の2議席を押さえました。これを受けて自民党は憲法改定の国会発議に向け本格的に動き出すとしています。70年の間、日本が戦争に巻き込まれることを防いできた憲法9条が、今大きな危機にさらされています。日本を再び戦禍にさらすことのないようにと活動を続けてきた私たち平和委員会も、今がまさに「正念場」です。

静岡市平和委員会は、11月理事会で「安倍9条改憲NO！ 憲法を生かす全国統一署名」に全力で取り組むことを決定し、それぞれの場で活動されている委員の皆さんに対し、平和委員会の名前入りの署名を2枚（10筆分）以上集めて事務所へ届けて頂くよう要請しています。

3000万署名 全県キックオフ 集会開催

11月12日「あざれあ」で「戦争法廃止！オールしずおかアクション」主催の全県キックオフ集会が開かれ、県内各地から90人を超える市民が参加しました。集会では西ヶ谷知成弁護士が、「改憲派は来年の春には改憲発議を行ってくる可能性

がある。3000万署名で世論を動かし、発議を食い止めよう！」と呼びかけ、諏訪部史人弁護士が「憲法第9条第3項・安倍加憲案の意味するもの」と題して講演。推定される3項は「ただし、前項の規定は確立された国際法に基づき自衛のための実力の保持を否定するものではない」と考えられるが、武力放棄を規定した2項の空文化を狙うものだと指摘し、改憲反対の世論を盛り上げ、発議を阻止しようと訴えました。

各地からの参加者の元気の発言が続いたあと、アクション事務局から行動提起が行われ、行政区単位で横のつながりを強めながら、市民の目や耳に届く取り組み①学習会や講演会②9の日行動、19日行動、スタンディングなど③署名チャレンジャー、地域リーダー作戦など④集会・パレードなどで市民に訴えよう！と呼びかけました。

在日米軍は 何を守っている？



10月11日、沖縄東村の牧草地（民有地）に米軍ヘリが墜落炎上した。

米軍は現地にロープを張り、警察や行政をシャットアウトした。日米地位協定による治外法権である。このようなことがすでに見慣れた光景となってしまったことはいかにも残念である。

私がかつと腹が立ったのは、事故後の在日米軍の態度である。小野寺防衛大臣は、事故原因が解明されるまで、同種のヘリコプターの飛行の中止を求めた。しかし、1週間後の18日、米軍は何の説明もなしに飛行を再開した。それに対して、小野寺防衛相や安倍首相は抗議はあるか説明を求めることすらしていないのである。

そればかりではない。当時沖縄入りをしていた岸田自民党政調会長は、在沖米軍二コルソン四軍調整官に会談をもとめたが断られたという。

日本とアメリカとの関係をこれほど雄弁に語るものもないだろう。 (合戸 政治)



◇今年の秋は自然も社会も異常と言えないではないかと思っただけ目まぐるしい変化の季節でした。10月には2度も台風が襲来、大きな被害を各地にもたらしました。◇9月から10月にかけては政治の世界でも突風が吹き荒れました。「加計・森友問題」で窮地に追い込まれた自公政権は「丁寧な説明」どころか、臨時国会冒頭解散、総選挙実施を宣言。憲法違反の民主主義無視の暴挙。加えて「希望の党」立ち上げと「民進党の解党」は野党共闘相手を狙った「クワター」と呼んでもいいような出来事でした。◇選挙結果は承知の通りです。4割でこの得票率で7割余の議席を得るなど、あらためて「小選挙区制」の害（自民党にとっては益力）、とても市民の感覚、常識外れの出来事です。そのような状況の中で市民と野党の共闘が大きな前進を果たしたことは、未来への期待です。◇早くも「虚構の多数」を占めた自民党と改憲勢力は「憲法改悪、9条改悪」を目指して動きを活発化させています。私たちの立ち位置と覚悟が求められる年に来年はなるのではないのでしょうか。静岡の「保守的風土」を「革新的風土」に変えていくことも大事なことを思います。「憲法改悪反対3000万署名」の取り組みを地域で頑張るつもりです。

足久保 新村直樹

米軍岩国基地調査

日本平和大会 in 岩国、動く分科会に参加

10月28、29日に山口県防府市・岩国市で開催された日本平和大会。その2日目、動く分科会（米軍岩国基地調査）に参加しました。この日は台風22号の影響で朝から雨が降っていて、きびしい条件の基地調査になりました。

10年かけて基地沖合213haを埋め立て、滑走路を1km沖合に「移設」。埋め立てに必要な土砂は愛宕山から調達しました。

最初は、愛宕山の跡地には、住みやすい安全な住民のための街づくりが計画されました。山口県と山口県住宅供給公社が地域発展の起爆剤として「21世紀型多機能都市」との触れ込みで建設する予定でした。ところが、米軍住宅建設適地調査が行われ、県と市は愛宕山を「宅地造成しても赤字になる」として住宅開発事業を廃止しました。それを受け、防衛省は愛宕山の四分の三（約75ha）を買収し、米軍住宅（一戸7千万〜8千万円）の思いやり予算や運動施設を整備して米軍に提供しました。野球グラウンド使用の優先順位は、米軍の次は小中高生、住民の使用は後回しです。11月に日米親善試合の高校野球大会が開かれます。建設費は

愛宕山跡地に米軍住宅や運動施設を整備し提供

爆音や墜落時の被害軽減を名目として、1997年から

国民の血税を投入、米軍再編関連経費5487億円超です。

岩国基地を東アジア最大の米軍航空基地に大増強

2017年7月以降、厚木基地（神奈川県）から米空母艦載機61機を米軍岩国基地に移転させるなど、米軍機が約130機も常駐する東アジア最大の米軍航空基地に大増強されるのです。自衛隊機も合わせると約160機にもなります。この大増強に伴い住民の生活と安全は保たれるのでしょうか。現在の倍以上の配備機数になります。この大増強に6500億円もの血税がすでに投入されています。

「愛宕山を守る市民連絡協議会」が結成

もともと県と市はそんな計画は最初からなかった事なのか、「新しい街が出来ること、地域の発展になるのなら」と、土地を手放した地権者など、愛宕山周辺の住民は「ごっそり」だま

された」と怒りをあらわに更なるたたかいに足を踏み出しました。「愛宕山を守る会」を結成し、艦載機移駐に反対する市民団体が結集し「愛宕山を守る市民連絡協議会」を結成しました。

基地強化の見返りの狙いはカネ

現在の岩国市の基地問題に対する基本姿勢は、「基地と共存する街づくり」を打ち出しています。そして市長は「子育て日本一の街に」をスローガンに掲げています。その狙いは基地強化の見返りにカネです。基地がある自治体には、補助金や交付金が国から交付され市民の平和的存在権をカネで買い取る悪質なものです。

恐ろしい基地依存

最近では、市民の間に「基地のおかげ」という意識も生まれています。これからの岩国も青森三沢のような米軍基地依存になっていくのだろうか？恐ろしいことです。（鈴木文也）

浜岡原発の再稼働を許さない！
11.19ひまわり集会 in 静岡

11月19日午後から駿府城公園で「11・19ひまわり集会 in 静岡」が開かれ、県下各地から1500名の市民が参加しました。林克実行委員長が、想定される震源域の真上にある世界一危険な浜岡原発の再稼働をさせないよう、みんなで声を挙げて行こうと呼びかけました。壇上では原子力発電に反対する福井県民会議代表委員・中島哲演氏、ビギナー被災検証会共同代表・間間元氏、日本共産党・井上哲士参院議員、立憲民主党・日吉雄大衆院議員があいさつ、県内各地から活動の報告が行われました。会場では思いあもいのフラカードやのぼり旗を手にした、子供連れや若い人からお年寄りまでの参加者で埋まり、「浜岡原発再稼働反対！」の声を挙げました。集会后は、市内をパレードして市民に訴えました。（二輪 矩正）



駿府城公園から市内パレードに出発する参加者たち

（二輪 矩正）